

園長だより「スクリーンタイム」 第9号

「スクリーンタイム」とはPC・スマートフォン・ゲーム機・TV等の画面を見ている時間のことを言います。

今更ですが、本当に便利な世の中になりました。手に収まるスマートフォンで生活の何もかもが事足りるようになりました。逆に自宅にスマートフォンを忘れて外出したりするとスマートフォンに依存し過ぎているので、家に帰るまで落ち着かない時間を過ごしてしまうこととなります。

ゲーム機の進化も素晴らしいですね。若い頃、喫茶店で「スペースインベーダー」「ブロック崩し」というようなゲームをしていた私にとって、今、子ども達が（大人も）遊んでいるゲーム機の進化には驚かされることばかりです。ただ、そんな便利さ・素晴らしさの裏には気を付けなければいけない畏が潜んでいることも忘れてはいけません。

毎年、文部科学省が小学校6年生と中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査を実施しています。その結果を分析考察し、全国の子ども達の学力や生活の課題を浮き彫りにしていきます。その中でわかってきたことの一つに「スクリーンタイムの長い子どもの学力は低い」ということがあります。人は楽しいことをしていたり、夢中になったりすると時間が経つのを忘れてしまいます。楽しい時間は進むのが早く、あっという間に過ぎていきますよね。それは子ども・大人を問わず、誰もが経験していることです。

少し前までは家庭でのスクリーンと言えばTVだけでした。そして、TVのチャンネル選択権は子どもにありませんでした。でも、今は違います。TVが2台ある家庭も少なくありませんし、ゲーム機などはお子さん専用のものがあったりします。小学校高学年になると自分専用のスマートフォンを持つお子さんも少なくありません。残念なことです、小学校高学年でスマートフォン依存症の子どもも出てきています。子ども達のスクリーンタイムが長くなると、学習に取り組む時間は減少します。睡眠時間も減少します。学習時間・睡眠時間が減少すれば当然、学力は低くなる。誰でもわかる論理です。

小学校高学年ともなると先生や保護者の皆さんの言うことを素直に受け入れてくれない子どもも少なくありません。自己主張ができるようになるということです。それはお子さんの成長の一つの姿ですから、ある意味では喜ばしいことかもしれません。でも、過剰なスクリーンタイムについてはそうも言ってはいられません。小学校高学年になったお子さんに対してスクリーンタイムの長さを指摘し、それを是正させるのは思っている以上になかなか難しいことです。できればお子さんが小学校に入学する前に、またはゲーム機を買ってあげたときにご家庭でしっかり約束やルールを決めておくというのが良いと思います。皆さんの思いだけで問答無用で決めてしまうのではなく、お子さんと話し合って納得した上でルール作りをして頂くのがいいと思います。年齢が進むにつれて時間や時刻などにそれなりのバージョンアップは必要かと思いますが、PC同様にお子さんとの初期設定はとても重要です。